

佐賀小学校

「夢や志をもち、たくましく生きる児童」の育成

校長 中平 泰史

◆はじめに

平成26年度は、通常の学級6、特別支援学級4、児童数103人、教職員数19人で教育目標を「夢や志をもち、たくましく生きる児童の育成」・「知・徳・体の調和のとれた児童の育成」とし、日々の教育活動に取り組んでいます。

昨年度は防災教育の研究指定校として、避難訓練はもちろん、授業の中の防災学習の実践のほか、防災キャラクターや防災ソングを作成し、児童が興味関心を持ち、意欲的に防災学習に取り組めるように工夫しました。その成果が、避難訓練時における行動の素早さや取り組む態度に顕著に現れるようになりました。今年度は「だれもが分かる、できる授業づくり」を大きな柱に据え、特別支援教育の研究指定校として、ユニバーサルデザインに基づく授業づくりの研究に取り組んでいます。

◆学力向上を目指して

「特別支援教育を柱に据えた学校づくり事業」研究指定校としての取り組み

今年度の本校の研究を進める上で、研究仮説として

「発達障害のある児童や学習に躓きがちな児童にとつて、分かる、できる授業づくり」をめざし、学習環境や学習形態、支援のあり方を追求していくことで、すべての子どもが「分かる」「できる」授業が展開でき、よく聞き、自ら考え、伝え合える子どもを育てることができると考えています。

を掲げ、「ユニバーサルデザインに基づく授業づくり」の研究に取り組むことになりました。これは、本校の大きな課題でもある学力について、全体的な底上げを図るための大きな柱になると考えています。また、各種アンケート結果や個別の指導計画などを、授業や日々の教育活動にどのように活かして行くかも併せて研究していく予定です。

◆標準学力調査結果概要

平成26年度 標準学力調査結果

(全国を1とする)

	2年	3年	4年	5年	6年
国語	1.06	0.95	0.97	0.91	—
算数	1.01	0.88	0.99	0.79	—
理科	—	—	0.94	0.91	0.90

本年度、4月に行われた、標準学力調査結果の概要です。それぞれの学年の結果分析を行い、課題改善につなげたいと思います。また、前述した指定事業を充実した取り組みにすることが、本校の学力を向上させるうえで、最も重要なことだと考えています。



◆4の約束

- 一 あいさつをする
- 二 返事をする
- 三 履物をそろえる
- 四 無言で移動する

今年度はこの4つのことについて、年度初めから子どもたちと約束し、学校全体で取り組んでいます。あいさつ運動や朝礼のときの整列、態度の指導など、児童会執行部が中心となって徹底を図っています。朝のあいさつは昨年度に比べ、ずいぶんとよくなっています。また、朝礼の時の集合など、無言で素早く集まることができました。この4つの約束は、学校生活の色々な場面で必ず生きてくると思っています。



◆さがつ子宣言

「おがたま八策」

本校の校章は、ご神木としても用いられる「おがたまの花」がモチーフになっています。その「おがたま」はPTA新聞や学校通信などの名称にもなっていますが、今年度は児童会がさがつ子宣言として、この「おがたま八策」を発表しました。

- さがつ子宣言
- おがたま八策
- 一 心のこもったあいさつをします。
 - 二 ありがとう、ごめんなさいを言います。
 - 三 約束をまもります。
 - 四 笑顔をふやします。
 - 五 苦手なことからげません。
 - 六 一日一日の勉強をだいにします。
 - 七 うやまう心をもちます。
 - 八 夢にむかってがんばります。
- 二〇一四年七月
佐賀小学校児童会

今年度もよろしくお願います。

三浦小学校

『力のある学校づくり』を
目指した取り組みの一端

校長 山崎 利彦

◆はじめに

本校は、本年度7人の入学児童を迎え入れ、全校児童50人で教育活動をスタートさせました。子どもたちは、校区の高台に建つ新しい校舎に向けて、毎日元気に登校し、学習や学校行事に一生懸命取り組んでいます。

三浦小学校が、昨年までと少し変わった点、それは、複式学級を1学級編制せざるを得なかったこと、そして、支援学級が新設された点です。2学年が1つの教室で学ぶということをマイナスにはしない！ハンディキャップがある子どももいきいきとした学校生活を送らせる！という思いをどの教職員もが持ちながら、教育活動を展開しています。子どもたちの頑張りと同向きさ、上級生が下級生を思いやれる行動が教育活動の随所に垣間見られ、「学校が楽しい」と感じている子どもたちが育っているように思います。こ

のような三浦小学校の取り組みの一端を紹介いたします。

◆学校経営理念として

今年度から、今後3カ年を見通した学校としての「経営計画」の作成が求められるようになりました。その中で掲げた本校の内容は、

- 一 地域とともにある学校づくり
- 二 確かな学力・豊かな人間性・たくましい心と体をもつ子どもの育成
- 三 教職員が協働し学び合える学校づくり

の3点です。

「地域とともにある学校づくり」は、これまでの学校や地域の取り組みを活かし、一歩前進させた開かれた学校づくりを目指すものです。今年度より、2カ年の「コミュニケーション・スクール推進・導入校(文部科学省指定)となりました



保護者・地域住民も一緒になって参加する三世代交流行事

ので、これまで保護者・地域住民と実施してきた「三世代交流」などの取り組みを活かし、地域とともにある学校づくりについて研究を重ねていきたいと考えています。

次に、「確かな学力・豊かな人間性・たくましい心と体をもつ子どもの育成」についてです。学校は、すべての子どもが自立して社会で生き、豊かな人生を送ることができ、本校でも知・徳・体のバランスある教育活動を目指し、日々の授業はもちろんのこと、教育活動全体を通して、子どもたちを心豊かに育もうとしています。また、今年度実施した学力調査の結果は、次の通りです。

平成26年度 標準学力調査結果

(全国を1とする)

	2年	3年	4年	5年
国語	1.07	1.04	1.00	1.06
算数	1.17	1.00	0.98	1.02

おおむね全国と同等かそれ以上の結果となっていますが、数値的な結果のみにとらわれず、学力調査の成果や課題を明らかにし、

個々の課題改善や授業改善に努めています。

学校経営に掲げた3点目の「教職員が協働し学び合える学校づくり」とは、このよう

な学力調査の結果も含め、子どもの実態を中心に据え、個々の教員の経験と実践力を結集し、子どもを伸ばすために協働できる学校づくりを目指すという事です。そのために大事にしていることは校内研修の充実です。全員が授業を公開して協議を行うことはもちろん、可能な限り外部から講師を招へいし、指導のあり方や子どもを見取る力を高める取り組みを進めています。



教員の授業力向上に向けた研究授業

◆学校評価を通して

「学校の取り組み内容はわかりやすいですか?」「学校の先生は一丸となって取り組

んでいると思いますか?」という設問に対して、昨年度末に保護者から、95・8%の肯定的評価をいただきました。学校の取り組みや教職員が連携して取り組む姿勢には高い評価をいただいたことにより、評価を感じたことですが、教員の授業や学力向上に向けた手だてには、まだまだ改善の必要があるということも分かりました。「信頼は日々の積み重ね」ということを肝に銘じ、今後も誠実な教育活動に努めたいと思います。

◆おわりに(学校の良さ)

「おはようございます!」「さようなら!」と、毎日元気に職員室にあいさつにくる子どもたち。また、チャイム前行動が比較的習慣化している本校では、チャイムが鳴って急いで校庭から教室に走って入る光景はほとんどありません。「元氣なあいさつ・返事」「時間(チャイム)を守る」を学校文化として浸透させてきたこの数年、確かに子どもたちの落ち着きは高まり、学習面や運動面にも成果を出してきたと思います。その流れを大切に、更に子どもたちを高めていきたいと思えます。